

# 子どもたちと一緒に考える 被災地の復興支援

2017年3月9日（木）13時～17時 ※受付12：30～

東洋大学 白山校舎 1号館1601教室 \*都営地下鉄三田線白山駅A3出口より徒歩5分/東京メトロ南北線本駒込駅1番出口より5分

東日本大震災から7年目を迎えようとしています。中学2年生で被災した子どもたちが、今年の「成人の日」の主人公になりました。彼ら/彼女らは被災直後、中学3年生の時期に義務教育の中で被災体験を共有し、その体験の意味を学校で考えたり、支援を受けたりしてきました。そうした意味で彼らが成人になったこの時期をとらえて、もう一度子ども期に提供された支援内容について、質や量や方法を検討する必要があると思います。

震災から6年を経た今、支援を受けてきた若者たちが語る震災時と後の子ども・若者支援の価値と課題はどのようなものでしょう。6年間の継続的な支援の中で高校生や大学生となった彼らは、被災当時のことや復興のことなどについて語ることによって考え、生まれ育った地域のために、様々な取り組みを始めています。

私たちは、子どもの声を大切にし、被災地域の復興に子どもの声を反映させるためのあり方について考え進めてきました。2012年1月に実施した第1回シンポジウムではおとなたちで考えました。2013年1月に実施した第2回目からは、被災後いろいろな形で寄り添ってきた子どもたち（中・高校生）が集い、大学生と一緒に支援の在り方について語りました。3回目には福島の子供たちが加わり、4回目には高校3年生が独自に復興の牽引者として復興への意見交換をする姿を見せてくれました。5回目には大学生や高校1年生になった子どもたちが復興への具体的な活動の報告をしてくれました。

被災地の子どもたちは積極的に出会いと語りの場を求め、自分たちの感覚を言語に変え、発言をすることで共有し、具体化する方法を探ってきました。毎年仲間や先輩たちが参加し、安心できる会になった場で、伝えたい同世代や大学生、おとなたちに対して語ることは楽しいと、何度も成長した姿を見せてくれる頼もしい子どもたちが育ってきました。第6回にあたる今年も、この子どもたちの営みを支え、子どもたちの意見を受け止めたいと思います。

私たちおとなは、その意見を聴き、新たな段階に入っている被災地支援について、子どもたちと一緒に考え、提言をしていきたいと思っています。ぜひ、ご参集ください。

## <プログラム>

### 1. 基調報告

東日本大震災における子ども支援の  
取り組みのこれまでとこれから  
森田明美（東洋大学）

### 2. 被災地の子ども若者たちの報告と 大学生・支援者との意見交換 (3グループに分かれて意見交換)

高校生と若者たち(若手県山田町、南三陸町、東京など避難者)、東洋大学社会学部学生、被災地出身の大学生など  
ファシリテーター

林大介（東洋大学）

清水冬樹（旭川大学短期大学部）

谷川由起子（NPOこども福祉研究所）

### 3. 全体討議

3つのグループの報告を受けながら参加者と一緒に考えます

### 4. 参加団体からのメッセージ

\*17時30分から子どもたちを囲んで軽食付きの交流会を実施します。参加費500円

## 司会進行

荒牧 重人（東日本大震災子ども支援ネットワーク  
運営委員 山梨学院大学教授）

森田 明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク  
事務局長 東洋大学教授）

【主催】東日本大震災子ども支援ネットワーク  
【後援】東洋大学社会学部・東洋大学福祉社会開発研究センター  
【問い合わせ】東洋大学森田明美研究室 TEL・FAX 03-3945-7481

参加の場合はe-mailにてお申込みを必ずお願いします。

E-mail : info@shinsai-kodomoshien.net